

東京五輪・パラリンピック組織委員会  
会長 森喜朗様

2021年2月9日

NPO法人平塚らいてうの会

森喜朗東京五輪・パラリンピック組織委員会会長の  
女性差別発言に強く抗議し、即刻の辞任を求めます

東京五輪・パラリンピック組織委員会の会長である森喜朗氏は、2月3日、日本オリンピック委員会（JOC）の臨時評議会で、「女性理事がたくさん入っている会議は時間がかかる」などという甚だしい女性差別発言をしました。

当会は、女性が自由にものを言い力を発揮する社会の実現を願って行動した、平塚らいてうのころごしを現代に生かそうと活動しています。今年は平塚らいてうの「元始女性は太陽であった」で知られる『青鞥』創刊110年です。このとき『青鞥』を通じて自分の意見を発信した女性たちは、「新しい女」として世の非難攻撃を浴びました。それでも女性たちは声を上げ、闘い続けたのです。それから100年以上たった今、女性は「黙っている」ことが分をわきまえた態度であるかのような発言がまかり通ることに、わたしたちは「時代遅れ」を通り越してこの国の民主主義の危機を感じています。あってはならない今回の発言に「黙っている」わけにはいきません。強く抗議し、会長の即刻辞任を求めます。

この発言は、JOCの臨時評議委員会の席上で行われたもので、スポーツ庁の「女性理事を4割にする」方針についての言及でした。「女性っていうのは、・・誰か一人が手をあげて言うと、自分も言わなきゃいけないと思うんでしょね」とも述べています。女性が積極的に自分の意見を表明することに対してこのように侮蔑的に述べることは差別的で許されないことです。現在JOCの役員は25人で、女性は5人すなわち2割であり、目標の4割の半分にすぎません。

「オリンピック憲章」は、「人間の尊厳の保持に重きを置く平和的な社会の推進を目指す」、また「権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的・・・いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない」と謳っています。この精神に真っ向から反する発言をする森喜朗氏が、会長に居続けることなど許されることではありません。

これを機会に、スポーツ界をはじめとする日本のあらゆる女性差別を一掃するためにも、森喜朗氏は組織委員会の会長を直ちに辞任するように、強く求めます。